



季刊 みる・きく・ふれる 文化財

# おうみ文化財通信

vol. 40  
2019 Summer

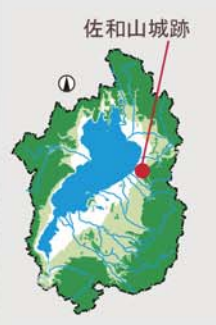
- 【調査速報】 佐和山城の城下町を掘る - 石田三成の居城 彦根市佐和山城跡 -
- 【展示案内】 「歴代天皇と近江展 - 滋賀県立琵琶湖文化館 館蔵品より -」
- 【開催案内】 2019 しがこども体験学校 - 夏休みの自由研究 -
- 【開催案内】 「塩津港遺跡発掘調査成果展 - 古代の神社と祭祀を中心に -」
- 【開催案内】 「あの遺跡は今! Part26」・「レトロ・レトロの展覧会 2019」



## 【調査速報】

# 佐和山城の城下町を掘る

— 石田三成の居城 彦根市佐和山城跡 —



本町筋沿いに展開する城下町の遺構 調査区に隣接する現在の市道は、城下町のメインストリート「本町筋」を踏襲すると考えられています。今回の調査では、この「本町筋」沿いで、多くの遺構を検出しました。道路に面して展開していた城下町に関連する遺構と考えられます。

(写真: 滋賀県教育委員会 提供)

佐和山城跡は、彦根市北端部の佐和山丘陵一帯にある戦国時代の城跡であり、石田三成の居城として広く知られています。その歴史は古く鎌倉時代に遡るとされ、戦国時代には江北の浅井氏と江南の六角氏との境目の城として抗争の最前線となりました。その後、城主は目まぐるしく替っていきますが、三成が城主のおりに城は最大規模になったと考えられています。関ヶ原の戦いで三成が敗れると、徳川家康の家臣・井伊直政が入城しますが、慶長9年(1604年)彦根城の築城に伴って廃城となりました。

このたび、遺跡の範囲内、なかでも丘陵麓一帯に想定されている城下町域を中心にして、一般国道8号米原バイパス工事が計画されました。そこで、平成30年度から発掘調査に着手し、現在も調査を継続しています。

調査の結果、佐和山城に関わる内堀・土塁や、建物跡・石組井戸等といった城下町に関連する遺構を検出したほか、それらに伴ってさまざまな遺物が出土し、佐和山城跡の城下町の様相をうかがう手がかりが得られました。

## ◆佐和山城に伴う内堀・土塁

佐和山城跡では、城下の武家地と町人地を区画する内堀の存在が想定されていました。今回、複数の地点で内堀と考えられる大規模な溝を検出し、従来の想定を検証するとともに、これらの成果から内堀の規模を幅約25m・深さ約0.7mと推定できるようになりました。

また、佐和山の東麓には総延長約160mにわたって土塁の存在が想定され、その西面には内堀の名残とされるおまん川（小野川）が流れています。これらは天正13年（1585年）に入城した堀尾吉晴によって構築されたと考えられています。今回の調査においても、部分的ではあるものの土塁を検出しており、土塁が現在も農道等の高まりとして遺存していることがわかりました。

## ◆城下町に関連する遺構

「本町筋」沿いの各調査区では、建物や井戸等といった城下町に関連する遺構を検出しました。建物はいずれも掘立柱建物で、複数の建物を復元することができました。城下町に居住する人々の家屋であったと考えられます。その多くは、主軸の方位が北から若干西へ傾き、本町筋等の周辺の地割の主軸とも揃っています。また、井戸は、いずれも井戸枠を佐和山周辺で採集できる自然石を積み上げて作っていますが、なかには五輪塔の部材を転用した例もありました。城下町の町屋において生活用水を得るために掘削されたと考えられます。



検出した内堀 内堀がほぼ直角に折れ曲がる箇所です。白線の右側の暗い土色の部分が内堀の埋土です。



検出した土塁 土塁は農道の高まりとして遺存しています。後ろの丘陵頂部付近が本丸跡です。



見つかった石組井戸 石を積み上げて井筒にしています。



「本町筋」沿いに展開する城下町 掘立柱建物が2棟重複して検出されました。背後の道路が「本町筋」を踏襲した現市道です。

(写真：滋賀県教育委員会 提供)

## ◆調査成果のまとめ

- ・城下町関連遺構を検出 「本町筋」沿いを中心に城下町が展開していたことが明らかになりました。
- ・内堀の構造・土塁の残存状況を確認 従来、絵図等から推定されていた内堀・土塁について、その規模・構造等に関する手がかりを得ることができました。



佐和山城跡の報告  
会資料はこちら

# 「歴代天皇と近江展－滋賀県立琵琶湖文化館 館藏品より－」



霊元天皇御眼鏡（琵琶湖文化館蔵）

休館中の琵琶湖文化館には、全国でも有数の質と量を誇る収蔵品があります。これらを積極的に展示公開することで、多くの方々に文化財に親しんでいただき、滋賀の文化の豊かさを改めて認識していただく機会として、県内の地域と連携して企画展を開催します。

今回の企画展は、その第1弾として、館藏品の中から歴代天皇に係る資料を選びすぎり、一堂に展覧いたします。過去にまとめて展示公開される機会がなかったこれらの品々は、お代替わりにより天皇家への注目が集まるなか、時宜に叶った展示としてもご覧いただけます。 「紫香楽宮」や「斎王群行」などで天皇家と特に関わりの深い甲賀市で開催しますので、みなさま、ぜひご来場ください。

開催期間：令和元年（2019年）

7月27日（土）～9月29日（日）

会場：甲賀市土山歴史民俗資料館 第2展示室

観覧料：無料

開館時間：午前10時～午後5時

休館日：毎週月曜日、火曜日

※企画展に関するお問い合わせは、下記の施設まで。



あまつ君

## ～関連イベント～

### 1. ギャラリートーク

開催日：7月27日（土）・8月24日（土）

時間：いずれも午後1時30分～午後2時30分

### 2. 夏休みKIDSワークショップ

「元号を書いてみよう」（小学3年生～中学生対象）

開催日：8月4日（日）

時間：①午前10時30分～ ②午後1時30分～

滋賀県立琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先

TEL. 077-522-8179 FAX. 077-522-9634

E-mail: biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp

URL: <http://www.biwakobunkakan.jp/>

甲賀市土山歴史民俗資料館

〒528-0211 甲賀市土山町北土山 2230

TEL. 0748-66-1056

FAX. 0748-66-1067

# 2019 しがこども体験学校

夏休みの自由研究に最適メニュー



## 【染物体験－草木染に挑戦！】

季節の植物を使ってスカーフを染めます。出来上がった作品を眺めながら、染め上がりの比べ合いをしてみてもは。もしかしたら大人がはまるかも・・・

日時：7月28日（日）・7月31日（水） 午前10時～午後2時～

参加者：小学生以上の子供さんとその保護者の2人1組

各日・各回10組（20人）

参加費：ひとり500円

## 【鋳物体験－古代の鏡を作ってみよう！】

金属を溶かして型に流し込み、古代の鏡を作ろう。鋳型（いがた）から取り出した鏡をピカピカに磨き上げ、自分の姿を映してみよう。

日時：8月7日（水）・8月10日（土） 午前10時～午後2時～

参加者：小学校4年生～（保護者同伴）

各日・各回15名

参加費：1,000円

## 【鍛冶体験－親子で鍛冶職人になってみよう！】

五寸ぎから、オリジナルナイフを作ります。2人1組で叩き手と支え手に分かれて息を合わせて作り上げましょう。

日時：8月24日（土）・8月28日（水） 午前10時～午後2時～

参加者：小学生以上の子供さんとその保護者の2人1組

各日・各回8組（16人）

参加費：ひとり500円



鍛冶体験



鋳物体験

開催場所：滋賀県埋蔵文化財センター（「びわこ文化公園」内）

募集期間：7月3日（水）から募集開始、開催日前日まで可（先着順）

応募方法：電話のみ（平日受付：午前9時～午後5時）

申し込み先：公益財団法人滋賀県文化財保護協会

TEL. 077-548-9780

公益財団法人滋賀県文化財保護協会

〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1732-2

TEL. 077-548-9780 FAX. 077-543-1525

URL: <http://www.shiga-bunkazai.jp/>



詳しい案内は、  
ホームページまで

## 滋賀県立安土城考古博物館第60回企画展・公益財団法人滋賀県文化財保護協会発掘調査成果展 「塩津港遺跡発掘調査成果展－古代の神社と祭祀を中心に－」

琵琶湖の北端に位置する塩津港遺跡は、古代から北陸と近畿を結ぶ琵琶湖の湖上交通の拠点として、重要な港の遺跡です。この遺跡は平成18年から平成30年にかけての発掘調査によって貴重な資料が数多く見つかりました。それは当時の港の実像や、人々の信仰や暮らしに迫るもので、古代の最重要港湾「塩津港」を裏付けるものでした。

本展覧会では、この調査成果のうち、神社などの信仰や祭祀を中心とした資料を紹介し、当時の塩津港をめぐる人々の暮らしについて考えたいと思います。

開催期間：7月20日（土）～9月16日（月・祝）

入館料：大人500(400)円 高大生300(240)円〔企画展開催中〕  
 小中生、障害のある方、県内在住の65歳以上の方は無料  
 ※（ ）内は20名以上の団体料金

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
 休館日：9月2日（月）・9日（月）〔企画展開催中〕

### 滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦6678  
 TEL. 0748-46-2424 FAX. 0748-46-6140  
 URL: <http://www.azuchi-museum.or.jp/>



塩津港遺跡から出土した神像（写真：滋賀県教育委員会提供）

### 企画展関連博物館講座

- 7月28日（日）「古代・中世の塩津港と地域社会」  
 講師 水野章二氏（滋賀県立大学教授）
- 8月11日（日）「発掘された塩津港遺跡」  
 講師 重田 勉（公益財団法人滋賀県文化財保護協会）
- 9月1日（日）「起請文木札と中世の神々」  
 講師 濱 修（公益財団法人滋賀県文化財保護協会）
- 9月7日（土）「古代の最重要港湾！塩津港」  
 講師 横田洋三（公益財団法人滋賀県文化財保護協会）

※いずれも当館NPSセミナールーム  
 午後1時30分～ 定員140名（先着順）200円

### 整理室公開事業・埋蔵文化財整理調査報告会

## 「あの遺跡は今！ Part26 親子でチャレンジ！みて・ふれる・考古学」

博物館内の整理室では、県内の発掘調査で見つかった出土品を整理・調査しています。夏休み2日間限定で、この部屋を特別公開！最新の調査成果では、塩津港遺跡などの出土品を展示します。整理作業公開、体験コーナー、スタンプラリーなど、発掘調査の成果や整理作業について興味を持っていただくメニューも実施します。夏休みの自由研究にも役立つかも。ぜひ、お越しください。

開催日：8月3日（土）・8月4日（日）

会場：滋賀県立安土城考古博物館内調査課安土分室  
 時間：午前9時～午後5時



詳しい案内は、ホームページまで



### レトロ・レトロの展覧会2019

## 「塩津港遺跡－京と海を結ぶ近江の港と船－」

平安時代後期の港が見つかった塩津港遺跡からは多数の遺物と共に、琵琶湖水運を担った船の資料が出土しました。資料から復元される船は「板作りの構造船」で「帆船」です。長さ20m程のものが想定でき、当時としては大きな船です。その姿は近世から近代に渡って琵琶湖水運の主役だった木造船「丸子船」によく似ています。その祖型となる船が平安時代には、すでに活躍していたこととなります。

平安時代の船はこれまで資料が少なく、その姿はほとんど不明の状態でしたが、塩津港遺跡の調査により船舶史の研究が大きく進むものと期待されます。レトロ・レトロの展覧会では、出土した船に関する遺物を展示し関連資料を紹介いたします。

開催期間：7月19日（金）～9月1日（日）

会場：滋賀県埋蔵文化財センター  
 大津市瀬田南大萱町1732-2  
 開館時間：午前9時～午後5時



船板出土状況



船イメージ図

（写真：滋賀県教育委員会提供）

公益財団法人滋賀県文化財保護協会  
 〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1732-2  
 TEL. 077-548-9780

### アクセスマップ



滋賀県立安土城考古博物館



滋賀県埋蔵文化財センター